

工学部だより

2025.5
No.30

施設を改修しました



工学部食堂(R7.3月改修完了)



工学部体育館(R6.3月改修完了)



工学部食堂の愛称は「techC」です。

学生に愛称を募集した結果、131件から応募があり、その中から大学院理工学研究科1年生(当時)が考案された「techC」に決定しました。「techC」には工学の意味を持つ「technology」に、利用者が組み合わせを選択できるようにした形式の食堂の意味を持つ「cafeteria」の頭文字「C」を組み合わせたもので、誰でも覚えてもらえるように短く響きの良い読み方にしつつ、楽しい時も辛い時も食堂にテクテク行けるようにという意味が込められています。

目

各学科の研究紹介	2
ごあいさつ	4
学務委員会だより	5
教務委員会だより	5
山形の未来を切り開け!	6
学科(専攻)だより	7
キャリアサポート室だより	10
学生相談室だより	10
長春理工大学に訪問して	11
就職活動と後輩へのアドバイス	12

次

令和6年度卒業・修了者の就職・進学先一覧	13
令和6年度卒業・修了者の就職状況	14
山形大学工学部後援会会則	15
令和5年度一般会計収支決算書及び 令和6年度一般会計収支予算書	15
山形大学工学部父母等の集い 令和6年度実施報告と令和7年度開催予定	16
お知らせ	16
令和7年度工学部年間予定表・後援会通信	16

各学科の研究紹介

高分子・有機材料工学科

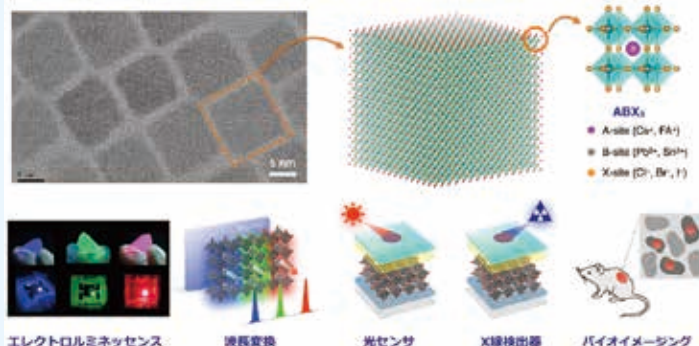
未来を切り拓く半導体ナノマテリアル： ペロブスカイトナノ結晶

ペロブスカイトナノ結晶は、ナノメートルサイズの半導体微粒子であり、結晶格子内のイオン組成やそのサイズを調整することで、可視光から近赤外領域における発光エネルギーを自在に制御できる特異な性質を持っています。この特性により電流駆動による自発光型LEDや光励起を利用したマイクロLED用光源、近赤外の吸収と発光を利用した光通信技術、さらにはバイオイメージングやX線検出の開発など、エレクトロニクス、エネルギー、バイオといった多様な研究分野において新たな挑戦を行っています。



大学院有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 教授
千葉 貴之

光って発電するナノマテリアルの創出とデバイス応用



化学・バイオ工学科

豊富な資源を活用した、 機能性材料の開発を目指して。

二酸化炭素のように「大量にあるのに有効に使われていない資源」は世の中に多くあります。こうした資源を活用して、新しい材料を生み出すことを目標としています。また、生物が代謝可能な物質に分解される材料など、循環する材料の開発も行っています。普通の材料に特徴ある物質や構造を加えて新しい材料が実現できれば大きな喜びですが、予想通りに進まず、学生たちの努力によって別の面白い結果に出会うこともあります。今後実現したいのは、資源の有効活用により石油資源の浪費を抑えたり、リサイクル性に優れた材料によってプラスチックによる環境汚染を抑止することです。



大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授
落合 文吾



情報・エレクトロニクス学科

脳波信号から人間が動かそうとする 体の部位を推定する。

我々の研究室では、人が運動をイメージしたときの脳波を解析し、動かそうとした体の部位を推定する技術の開発を行っています。この技術により、例えば医療の分野では義手や義肢などの補助装置と連動させることで、思い通りにそれらを動かすことができ、失われた身体の一部を代替できます。また、ロボットといった機械やさまざまな物体の操作などに適用すれば、すべての人が日常生活において利用可能なインタフェースの実現につながると期待されます。現在、五指の運動を判別する研究に取り組んでいますが、AI技術を駆使し、判別精度を高め、将来的には学内の他分野の研究室と連携しながら、脳波で動く装置の開発を目指したいと考えています。



大学院理工学研究科 情報・エレクトロニクス専攻 教授
深見 忠典



機械システム工学科

ミクロの世界から光と熱を操る ナノ粒子によるふく射伝熱制御

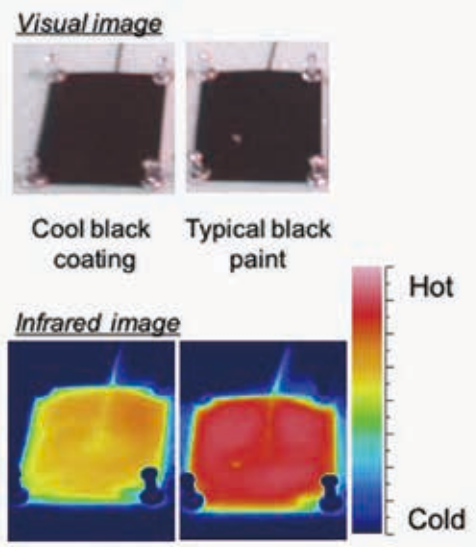
日々、我々は太陽の暖かさを感じながら生活しています。その太陽の光、いわゆる電磁波を介して伝わる熱を「ふく射熱」と呼びます。このふく射熱をナノ粒子によって自由自在に操ることに挑戦しています。

例えば、「黒い色＝熱い」というイメージがあると思います。これは黒いものが太陽の光を全て吸収し、光のエネルギーを熱に変えているからです。太陽の光というのは目に見える「可視光」と、目に見えない「近赤外光」に分類されます。この目に見えない近赤外光のみを反射できれば、見た目が変わらないまま熱くなりにくい「冷たい黒」が実現できます。このような特性をナノ粒子を使って実現する研究に取り組んでいます。



大学院理工学研究科 機械システム工学専攻 教授

江 目 宏 樹



建築・デザイン学科

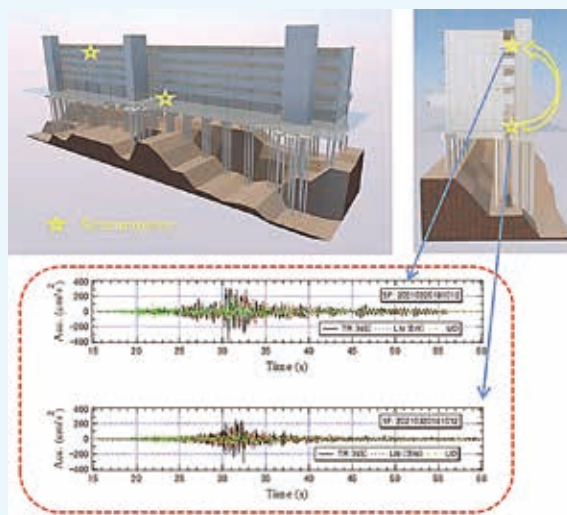
微小振幅から大地震まで： 「揺れ」で建物・地盤の性質を探る

建物が地震に対して応答する時、上部構造を支える基礎構造や地盤の影響を受けます。また過去の地震で受けたひび割れなど損傷の影響が現れることもあります。私の研究室では鉄筋コンクリート造の集合住宅や寺院など木造伝統建築物に加速度センサーを取り付け、常時の微小な振動から大地震までの応答を観測することで建物の地震時挙動をより正確に把握するとともに地震時にはいち早く損傷を検知する構造ヘルスマニタリングに関する研究を行っています。また同様な手法を応用することで、基礎構造の影響や地盤の複雑な地下構造なども推定することができます。皆さんも実大の建物や普段暮らしている地域の地盤と一緒に「測って」みませんか？



大学院理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻 教授

三 辻 和 弥



システム創成工学科

柔らかい物質の物理や化学から健康を考える

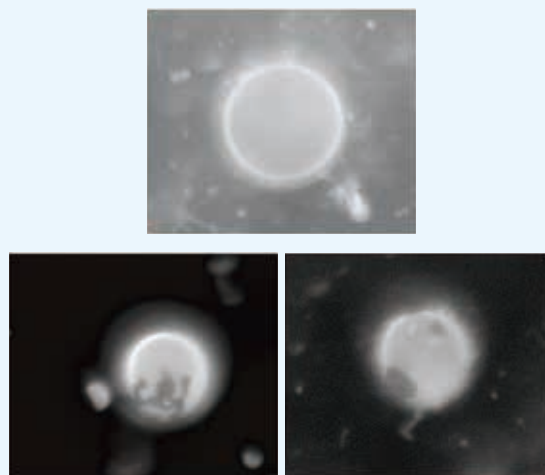
生物の身体を構成する細胞膜や食べ物のゼリーなど、柔らかい物質は身近に多く存在しています。研究室では、主にそのような柔らかい物質の物理学的、化学的性質を研究しています。例えば、細胞膜はリン脂質と呼ばれる分子の集合体が土台となり、その中にタンパク質などさまざまな分子が入り込んでいます。人工的に細胞膜と似た単純な膜をつくり、化学物質がその膜に入り込んだ際の影響を調べて、実際の細胞膜への影響を予測します。実際の細胞や生物個体を使うと、その維持や管理にコストがかかりますが、人工の膜を使うことで、お手軽に実験ができます。実験により判明した事実から、化学物質がヒトの健康に与える影響について考えたいと思います。



大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 准教授・

学術研究院 システム創成工学分野 准教授

吉 田 一 也





ごあいさつ

工学部長 黒田 充 紀

工学部後援会会員の皆様には、日頃から教育・修学環境向上ならびに学生の課外活動に対し多大なるご支援を頂きまして心より御礼申し上げます。

工学部のある米沢キャンパスの正門横には、明治43年開校の旧米沢高等工業学校本館（国指定重要文化財）があります。米沢は、江戸時代後期に上杉鷹山公の指導によって絹織物の代表的産地となりましたが、明治期にその地域性を活かして設置されたのが米沢高等工業学校です。全国では7番目の官立高等工業学校でした。米沢高等工業学校の設立当時、帝国大学において理工系を有していたのは東京と京都のみで、技術者教育は主として高等工業学校で行われました。大正初期には秦逸三教授が国内初の人工絹糸の開発に成功し、米沢に帝国人造絹糸株式会社（現在の帝人）が設立されたことは特に有名です。高等工業学校の開校当時の校舎が現存するのは米沢のみであり、大変貴重な歴史遺産となっております。現在、旧本館内部には、開校以来の教育資料、秦逸三教授関連資料、文明機器遺産（コレクター菅原和雄様ご寄贈品の数々：トーマス・エジソン社の筒形レコードの蓄音機ほか）の展示をしています。旧本館は、工学部総務課に予約をして頂ければ随時見学可能ですが、特に、オープンキャンパス、大学祭（吾妻祭）、父母等の集いなどの開催時には全面的に開放して多数の方々に見学頂いております。現在、旧本館の更なる活用を考えております。旧本館を活かした文化発信を通して工学部と米沢の魅力をより広く知って頂きたいと考えております。その一端をご紹介します。工学部は、2023年から始まった地域イベント「360°よねざわオープンファクトリー」に参画しております。オープンファクトリーは毎年9月中の3日間開催され、織物・発酵・醸造などの企業・工場を解放し、見学会・ワークショップなどのイベントを通して、市民（全国・世界からの参加歓迎）と米沢の産業界との交流を行うものです。過去2回のオープンファクトリーにおいてシンボリック企画として、米沢在住のピアニスト福田直樹さんのチェンバロミニコンサートとアーティスト・デザイナーの方々のトークショーを旧本館内で実施しております。また、昨年の大学祭（吾妻祭）開催期間中

（10月）には、旧本館大会議室において「SENTAN2024」と銘打って絵画とVR（virtual reality）の展覧会を行いました。本展覧会は、米沢在住の日本画家 高橋誠様にコーディネータをお願いして実現しました。工学部からはVR部の学生がコンピュータ技術を活かした作品を出展しました。会期中600名を超える方にご観覧頂き大盛況に終わりました。「重要文化財コンサート」も久しぶりに復活しました（コロナ禍前以来）。昨年12月には、クラシックギタリストの秋田勇魚さんをお迎えしてクリスマスコンサートが実現しました。今年を含めて類似の企画が持続的に続くよう運営してまいります。後援会の皆様に於かれましては、是非、これらの機会に米沢をご訪問頂き、各種イベントや展示をお楽しみ頂ければと思っております。

さて、今年1月、山形大学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。J-PEAKSは、日本全体の研究力を向上させ新たな価値創造を促進していくために、大学ファンด์による「国際卓越研究大学」と並行して行う国家事業です。国際卓越研究大学は現在のところ東北大学のみですが、今後10大学程度が認定されると予想されます。地域中核J-PEAKSには25大学が決定しましたので、山形大学は日本を代表する35の研究大学に入ったこととなります。J-PEAKSは特色ある研究大学を選定しておりますが、本学は「サステナブル・エレクトロニクス」を主要テーマに、研究の多様性・卓越性、イノベーション・社会実装、地域創生、大学改革を掲げてサステナブル社会と地域創生の実現を目指します。もちろんその中心は、米沢キャンパスとなります。支援経費は、設備30億円、実行25億円の合計55億円という大規模なものです。設備・装置の本格稼働は令和8年度を目指しています。教育・研究環境は大幅に向上しますので、卒業研究や大学院研究を行う学生・大学院生の皆さんのメリットも大きくなります。

今後とも教職員一丸となって教育・研究・大学運営に努めてまいりますので、引き続きご支援を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

学務委員会だより

令和6年度 学務委員会委員長 香 田 智 則

(大学院有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 教授)



学生さんが入学してから卒業するまでの学びの手続きをまとめるのが、学務委員会です。卒業するまでにはいくつかの関所が設けら

れています。関所の内容は、「学生便覧」と呼ばれる冊子に明記されています。学んでいる学科やコースにもよりますが、多くの工学部の学生さんは1年生の時には小白川キャンパスで学びます。彼らにとって、入学してから最初に通過する関所が2年次進級条件です。これがクリアされると2年生の4月から米沢キャンパスで学ぶことになります。さらにいくつかの関所が設定されていますが、詳細は「学生便覧」にお任せすることいたします。

さて、これらの関所を通り抜けていくと、どこに向かうのでしょうか。もちろん、定義の上で、また、課程の出口である「卒業」に向かっていることになります。しかし、これは学生さんが目指す最終到達地点ではなく、通過点であることは皆様もご存知です。卒業後は大学院に進学する方、就職する方、それぞれの道を選択していきます。その先にも様々な選択肢があり、可能性はいくらでもあります。「無限に広がる大宇宙」と言うナレーションでスタートするアニメをご存知の方もいると思いますが、まさに「無限に広がる私たちの人生」と言えます。その先の可能性をイメージすることが重要であることは間違いありません。

教務委員会だより

教務委員会委員長 野々村 美 宗

(大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授)



教務委員会は、大学院博士前期課程(修士課程)と大学院博士後期課程(博士課程)で実施される教育プログラムの運営を担当しており

ます。山形大学では、自然科学で得られた知見を基に社会で役に立つものを開発する工学の分野では、AI等の新しいテクノロジーの発展を受けて変化が続いていることを受け、次世代を牽引する人材を育成するための新たな試みを続けています。2023年度に大学院博士後期課程が改組となり、これまでの5専攻を1専攻にまとめた「先進工学専攻」がスタートしたことに続いて、2025年4月には、大学院理工学研究科博士前期課程において、「数理情報システム専攻」が設置され、定員94名の学生が入学し

ました。新専攻は現情報・エレクトロニクス専攻と理学専攻の一部を融合した専攻となり、山形大学の情報教育リソースを結集し、地域社会との連携を強化した専攻としていく予定です。また、博士後期課程では、博士後期学生を経済的にサポートするための取り組みとして、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」が採択され、「博士課程5年一貫教育プログラム」と継続・連携し、社会を革新する高度博士人材の育成に取り組んでおります。学生たちが自由に学び、自立していく仕組みを作っていくために、教職員一同様々な取り組みを進めてまいりますので、関係の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

山形の未来を切り開け！



この1年の国際交流活動

工学部国際交流センター副センター長 准教授 仁 科 浩 美

山形大学では、自ら世界とのつながりを広げていくことができる人材を育成するため、広く外国人との対話や協働での活動に取り組む交流活動を「グローバル体験プログラム」として認定しています。該当する活動に参加することで学習成果として記録され、学習成果の振り返りが行えるよう参加実績レポートとして配布されます（2025年5月開始予定）。

グローバル体験プログラムには、

- I. 本学が開講する単位を付与する授業（例、工学部国際連携サマープログラム派遣、海外研修実習等）
 - II. 単位付与を伴わないプログラム等（例、海外学生対象の国内プログラム、多言語活動、本外以外の主催による海外研修プログラム等）
 - III. 本学の留学生への学習・研究・日常生活に関する助言・協力を行うチューター（Tutor）活動
 - IV. 国際学会等での研究発表等
- があり、学生の積極的な態度を評価するものとなっています。

（詳細：<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/international/gxpgm>）

2024年8月下旬には、グローバルなプログラムの入門編として位置づける「工学部国際連携サマープログラム」を本学部を会場に実施しました。今回は協定校のマレーシア・トゥンク アブドゥル ラーマン管理工芸大学及びモンゴル科学技術大学から学生を迎え、本学部の学生と「都市・建築における自然災害とサステナブル・ライフを考える」というテーマの下、全て英語で活動を行いました。各国の自然災害の紹介、地震工学に関する講義受講、県内にある慈恩寺や防災科学研究所雪氷防災研究センターの見学、最終日の発表を通し、他国の事情、多様な考え方、外国語習得法等、様々なことを感じ、学んだようでした。

工学部国際連携サマープログラム（受入れ）



慈恩寺の耐震・雪害対策について説明を受ける



JAPAN DAYの様子

また、令和6年度は学部1年生、2年生の海外への関心が非常に高く、日本語や日本文化を現地の学生に紹介しながら異文化適応力を養うことを目的とした「学生大使派遣プログラム」では前期・後期併せて14名がモンゴル、インドネシア、ベトナム、ラトビアの協定校へと飛び立ちました。

さらに、一人で海外の研究室を訪問する「海外研修実習」では、大学院生が中国の協定校長春理工大学を訪れました。より長期的な留学としては、現在、学部4年生がドイツのライプニッツ・ハノーヴァー大学へ一年間の予定で留学しています。

インターネットがあれば世界の情報が容易に手に入る時代ですが、感受性が豊かなときに、見知らぬ文化の中に身を置いてみるのもお勧めしたいところであり、今後さらに支援を充実させていきたいと思っています。

学科(専攻)だより

高分子・有機材料工学科

令和6年度 学科長 教授 森 秀 晴



保護者の皆様、後援会の皆様には、日頃からご支援を賜りまして心よりお礼申し上げます。

今年3月には高分子・有機材料工学科から141名の卒業生（進学109名）と有機材料システム専攻から98名の修了生（進学11名）が巣立つ予定です。

これらの卒業生・修了生がそれぞれの分野で活躍してくれることを期待しています。

学生生活も通常の状態に戻り、学会等に参加する機会が増えております。学生の受賞報告も数多く届くようになりました。修士学位論文公聴会や卒業研究発表会でも日頃の成果を堂々と発表しておりました。修士学位論文公聴会での英語セッションもすっかり定着し、令和6年度は18名の修士学生が英語で発表をしました。これら学生の半分程度が博士後期課程に進学する予定です。国際化に向けた取組の1つで、専門知識や研究能力だけでなく、国境を超えて活躍できる能力・スキルを有するグローバル人材に成長することを期待しています。また、学科内でのサッカー大会や野球

大会などの活動も再開され充実した学生生活が戻ってきている事を実感しております。学科のホームページでは、「社会で活躍する卒業生」、「学科紹介動画」、「夢ナビ講義」などを充実させております。機会のある際にご覧いただければ幸いです。

高分子・有機材料工学科では、令和5年度から教員の異動がありました。令和7年3月末には長年にわたり本学科の教育・研究にご尽力された岡田修司先生が定年退職され、3月には最終講義が盛大に行われました。一方、令和6年4月に高田健司先生と土肥侑也先生が准教授として、7月に中村聡先生が助教(山形大学教育推進機構)として赴任されました。新たな先生を加え、より充実した教育環境を提供できるよう教職員一同努めてまいります。

今後とも、本学科の活動に対して皆様からの温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



修士論文公聴会英語セッションの様子



サッカー大会の様子

化学・バイオ工学科

学科長 教授 落 合 文 吾



ニュースでご覧になった方、実際体験されている方のいずれもいらっしゃるかと思いますが、米沢は大雪に見舞われております。それが米沢の冬と言われればそうかもしれませんが、この冬は少々げんなりしました。この原稿を書いております2月末になり、

ようやく落ち着いてきたかなというところです。この厳しい冬にも負けず、学生は勉学と研究に励んでいます。2月14日には修士論文公聴会、17日には卒業研究発表会が行われ、これまでの研究成果を発表しました。満足のいく発表ができた人も、心残りが有った人もいたようですが、これを糧に次のステージで活躍してくれることを祈っております。写真は、最優秀発表と優秀発表の表彰式の様子です。多くの素晴らしい発表を

聞いたことは教員として大きな喜びであり、早くも次回が楽しみです（その前後の論文チェック・発表練習地獄はつらいのですが……）。巣立ちの後は、新たな学生を迎える春となります。学生の皆には、充実した学生生活を送ってもらいたいと思います。皆様方におかれましては、今後とも本学科・専攻の活動に対してご理解をいただくと共に、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



最優秀発表と優秀発表の表彰式の様子

情報・エレクトロニクス学科

学科長 教授 高野 勝 美



ニュースを賑わしているAI技術と半導体技術の両方に関係する当情報・エレクトロニクス学科は、成長分野として期待されています。それに応えるために、両コースにわたる融合

領域の授業改善が進行中です。小中高生向けの体験型イベントの実施など、社会貢献活動にも力を入れています。大学生がアシスタントを務め、参加者の支援はもちろん、大学生は意欲的な若者から刺激をもらっています。

当学科に関係する博士前期課程は令和7年度から実践的インターンシップなども経験できる数理情報システム専攻となります。大幅な募集定員増で、意欲のある学生

がよりスムーズに大学院へ進学できます。

今後とも皆様方のご理解と、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



体験イベントのようす

機械システム工学科

学科長 教授 上原 拓也



機械工学分野は、構造、材料、熱、流体、ロボットを中心とし、バイオ、医学、電気、情報、化学など、様々な領域に関する幅広い分野です。そのため、機械・製造業だけではなく、あらゆる産業分野から必要とされ、卒業生、修了生は様々な方面で活躍

しています。受験者人口の減少に伴い、本学科でも昨春は定員に満たない入学者となりましたが、入学後の学生は、これまでと変わりなく、意欲的に学習に取り組んでいます。4

年間、ないしは大学院も含めた6年間の学習の後、それぞれの進路で自信をもって活躍できるよう、教育に努めて参ります。一方、大学予算削減の影響で、教員の人数も減少傾向にあり、学科内では教育方法の改善に取り組

んでいます。今春の入学生からは、機械工学の基礎をしっかりと学んでもらうよう、基礎科目に重点を置いた科目構成に見直しております。研究では、教員や学生が今年も学会・国際会議等で多くの賞を受けています。これらの活動内容は、学科HPで発信しておりますので、是非、定期的にご覧頂き、学生の活躍の一端をご覧頂ければと思います。

本学科では、今後も研究・教育の一層の充実を図り、改善に努めて参りますので、引き続き、皆様からのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



学科HP



卒業研究発表会

建築・デザイン学科

学科長 教授 三 辻 和 弥



学科設立当初より、全国の他大学の建築学科との差別化をどう図るかに腐心しているところですが、置賜地方を中心に建築だけでなく森林や林業・製材業に関連する県内自治体、企業や組織の方々との連携を進めています。昨年は置賜の森での植林

体験のほか、黒田工学部長のご協力もあり、丸太からストリートファニチャーを製作する企画も行いました。

また新しい試みとして、モンゴル科学技術大学土木・建築学部との学部間協定を結びました。仁科先生、クワ



サマープログラム(慈恩寺訪問)



ストリートファニチャー製作

システム創成工学科

学科長 教授 片 桐 洋 史



2010年に設置されたシステム創成工学科は令和6年度15期生を迎えました。本学科では1年次から米沢キャンパスで生活する利点を活かし、数学・物理などの基礎科目については少人数制教育を実施し、先輩との交流や社会人基礎力の養成にも

力を入れています。令和7年度、システム創成工学科は機械工学から情報科学へとカリキュラムが大きく変わります。「デジタル融合で未来を創る」をキャッチコピーに、1年次から情報科学の基礎を学び、2年次からは7分野に分かれて専門を深めます。情報科学を学んだ建築学者やDXに精

通したバイオ化学者など、従来の工学分野の枠組みを超えた課題に柔軟に対応できる幅広い教養と専門知識を養います。これにより、新たな課題に挑戦する意欲を持ち、広い視野でデジタル融合を実現できる人材を育成します。充実した学生生活が送れるよう教職員一同努めてまいります。今後とも皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



大学院生の先輩を囲んでの1年生芋煮会

キャリアサポート室だより



理工系の就職 令和6年度の総括と今年度の展望

キャリアサポートセンター長 村 澤 剛

(大学院理工学研究科 機械システム専攻 教授)

工学部では、各学科の就職担当の教員が学生たちの就職をサポートするとともに、工学部内のキャリアサポート室が学生のキャリア形成への支援活動を行っています。各学科においては、学生との進路面談や企業との情報交換を密に行い、いま現在の就職活動の状況に応じた支援を行っています。キャリアサポート室では、年間を通して就職相談・エントリーシートの書き方などのアドバイスを行っています。また、学内ではOB・OGの訪問による就職関連の説明会（エントリーシートの準備方法など）や山形県と協働した県内企業数社（十数社）を集めた説明会なども行われています。

令和6年度の学部生・大学院生の企業などへの就職状況については、2月の時点で100%に近い内定率となります。近年、工学系の学生の就職は売り手

市場（学生有利）の状態となっています。また、ここ数年で就職活動の状況はドラスティックに変化していて、“企業が夏季に短期インターンシップを行い、そこに参加した学生に対して選考が行われ内定に至る”といったかたちが主流となりつつあります。内定が出るタイミングも年々早くなっている状況です。

学内で開催される説明会などは、OB・OGによる生の声が聞ける良い機会です。就職活動を行なっている学生の皆さんはぜひ参加してみてください。きっと就職活動の一助となるでしょう。研究・授業・就職活動が重なる大変な時期となりますが、学生の皆さんにとっては大きな人生の分岐点となるタイミングです。焦らず慌てず入念に企業を調べ、自分が働きたいと思える企業を見つけてください。Spread your wings around the world!

学生相談室だより

学生相談室長 木 俣 光 正

(大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授・学術研究院 システム創成工学分野 教授)



工学部学生相談室は工学部保健管理室内にあります。複数のカウンセラーが常駐し、学生の皆さんがよりよい学生生活を送るためにサポートしています。ここは、学生の皆さんの授業、生活、進路、心や体、友達との付き合い、先生との関係、日常の生活を送る上でのトラブル、ハラスメントなど様々な問題に対応しています。カウンセラーは個々の相談内容に対して丁寧にお話を聞きながら、時間をかけて解決に向けてサポートしています。どんな些細なことでもかまいませんので、何か困ったことがあれば相談してみましょう。個人の情報が外にもれることはありません。

相談申込は、電話やメール（工学部のホームペー

ジに載っています）、直接窓口からも受け付けています。また、直接対面での面談が難しい場合は、電話やZoomでのオンライン面談も行っています。特に緊急性を要するものは学生の安全を守るため、学科長やアドバイザー教員などとチームを組むことで早期解決に務めています。

学生相談室では、ニュースレターの発行や講演会の開催のほか、多様な性について、あたたかな雰囲気の中で語り合う「カラフルCafé米沢」や、ストレスマネジメントや進路など、テーマ別に行う「グループワーク」を不定期に開催しています。情報はXなどで発信していますので是非ご覧下さい。学生相談室は、皆さんが充実したキャンパスライフを送れるよう、これからもサポートしてまいります。

長春理工大学に訪問して



大学院有機材料システム研究科博士前期課程有機材料システム専攻 **大嶋 悠斗**

私は大学院在学中に海外で経験を積むこと、論文投稿をすることを目標に掲げました。目標を達成するために指導教員に相談したところ、海外研修制度というものがあると紹介していただき、知ることができました。研修先の大学としては中国の長春市にある長春理工大学を選びました。長春理工大学は私が専攻している材料分野に重点を置いており、多くの研究成果を出しています。よりレベルの高い環境に身を置くことが自分の良い刺激になるのではないかと考え志望しました。

現地に到着してからは、学生に多くの場面で助けていただきました。実際に、現地の学生と交流するようになると私が想像していたよりも、かなり活発に意見を交換しているなと感じました。実験により得られた結果を一人で抱え込むのではなく、議論を

交わし、次にどう進めていくかという姿勢がとても印象的で心に残っています。研究はやはり他者との意見交換をするのが大事だと改めて考えさせられ、私自身、より積極的に意見を交わそうという姿勢を出していこうと思いました。また、研究だけでなく勉学にも熱心に打ち込んでおり、基礎知識を定着させることが議論のレベルを上げることに直結するのだと感じました。

2週間という短い期間ではありましたが、現地の学生と実際に交流することはかけがえのないものになると思います。私自身がそうであったように留学にハードルの高さを感じている学生は多いと思います。しかし海外研修は最大でも2週間であるため、海外での経験を積みたいと考える学生にとって良い機会になると思います。この制度を知って利用する学生が増えればよいと思います。



就職活動と後輩へのアドバイス



大学生活を過ごすためのポイントは？

先を見越した生活を送ることです。大学生活は良くも悪くも自己責任です。授業の時間割は自分で組む必要があります。加えて、アルバイト・サークル・プライベート・就活・研究と、やるべきことは多く、意外と4年間はあっという間です。そのため、スケジュール管理を十分に行い、先を見越した行動を行っていくことで、焦ることなく前持った準備が出来ると思います。進路を考えるタイミングで自分を振り返ったときに、あふれかえるくらい多くの思い出を作ってみてください。

卒業後の進路を決める際のポイントは？

早めの行動だと思います。私の場合、2年生から

化学・バイオ工学科卒業

齊藤 里奈

希望企業に目星を付け、企業研究やインターンシップ・企業見学を行ってきました。希望職種が明確でなくとも、実際に多岐にわたる業界や企業を見て、働いている現場を見て仕事内容を知ること、徐々に自分の目標が見えてくるのではないかと思います。インターンシップ等を積極的に行うことで、3年の冬には内々定が決まります。成りたい自分を掴むためにも、卒業研究を円滑に進めていくためにも、早めの就職活動が重要です。

後輩の皆様へ向けたメッセージ

人生の中で全て自分で決めていい時間は、この大学生活だけではないでしょうか。そして、失敗して笑えるのも大学生の特権です。やりたいことはチャレンジしてみてください。きっと皆さんの糧になってくれるはずです。



大学生活を過ごすためのポイントは？

色々なことを経験することが大切だと思います。高校生の時と比べて、大学生は自由に使える時間が多いと感じます。そのため、勉強以外にも、趣味を広げたり、サークル活動やバイトに取り組んだり、新たなことに挑戦してみるといいと思います。そうすることで、自分のやりたいことや価値観を理解できます。また、様々な経験のなかで多くの大切な友人を作ることができ、充実した大学生活に繋がるでしょう。あまり興味の無いようなことも、機会があれば一度やってみて下さい。

大学院有機材料システム研究科博士前期課程有機材料システム専攻修了

森 麟太郎

卒業後の進路を決める際のポイントは？

進路を決める際に重視していたことは2点あります。まず1つ目が、企業や業界を決めすぎないことです。色々な業界の説明会を聞いたり、調べたりすることで、それぞれの業界の魅力を知ることができ、自分が本当にやりたいことを見つけられると思います。2つ目が、就活の軸(就職先を選ぶ上で譲れない条件)を決めることです。自分が就職先を選ぶ際にどこを重視するかが決まると、自分の考えとマッチした企業を選ぶことができると思います。

後輩の皆様へ向けたメッセージ

大学の4年間や、大学院の2年間は長いようで意外と短く感じます。ぜひいろいろなことを体験して、学生の間にしかできないことを楽しんで、充実した学生生活を送って下さい！応援しています！

令和6年度卒業・修了者の就職・進学先一覧

1. 工学部

(令和7年4月15日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼間	高分子・有機材料工学科	タカラスタンダード(株)、タキロンシーアイ(株)、日本連続端子(株)、プラス・テック(株)、ラピスセミコンダクタ(株)宮城工場、(株)JSP、(株)MIS、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)イーエムエス、(株)ザ・ワークスホールディングス、(株)ニフコ山形、(株)ビジネスサービス、(株)リード、(株)ワイ・デー・ケー、(株)潤工社、(株)東根新電元、住友化学(株)、日弘ビックス(株)、日本テクノカーボン(株)、日本製紙クレシア(株)、林テレンプ(株)、山辺町職員、米沢市職員、山形大学大学院(98名)、東北大学大学院(2名)、京都大学大学院、電気通信大学大学院、北海道大学大学院生命科学院、北陸先端科学技術大学院大学、名古屋大学工学部化学生命工学科	
	化学・バイオ工学科	日新製薬(株)(5名)、クアーズテック合同会社(3名)、富士電機(株)(2名)、ENEOSグローブエナジー、TPR工業(株)、協同薬品(株)、アイジー工業(株)、岩瀬コスファ(株)、オーガニック川口(株)、岡三証券(株)、京楽産業(株)、クマイ化学工業(株)、クリタ分析センター(株)、グローバルウェーブ・ジャパン(株)、コナミグループ(株)、新菱冷熱工業(株)、スミダ電機(株)、大日精化工業(株)、千代田エクスワンエンジニアリング(株)、通研電気工業(株)、テクノクォーツ(株)、東芝マテリアル(株)、東北電力(株)、日東ベスト(株)、ニプロファーマ(株)、日本化学工業(株)、日本原燃(株)、日本乳化剤(株)、野村マイクロサイエンス(株)、東日本旅客鉄道(株)、富双合成(株)、古河電気工業(株)、マイクロンメモリジャパン(株)、丸文(株)、理研計器(株)、(株)H 4、(株)JSP、(株)NNTデータビジネスシステムズ、(株)TOKYO BASE、(株)ウオロク、(株)学究社、(株)クレスコジェイキューブ、(株)コヤマ、(株)サンデリカ、(株)ソリトシシステムズ、(株)ネクスコ東日本エリアトラクト、(株)ひばりシステム、(株)MAYA STAFFING、上山市職員、宮城県仙台市職員、静岡県職員、経済産業省東北経済産業局、山形大学大学院(64名)、東北大学大学院、東京工業大学物質理工学院材料系、池見東京医療専門学校	
	情報・エレクトロニクス学科	ハイメカ(株)(2名)、AKKODiSコンサルティング(株)、NECプラットフォームズ(株)、SCSK Minoriソリューションズ(株)、SMC(株)、アズマックス(株)、アルプスシステムインテグレーション(株)、エヌ・デーソフトウェア(株)、キャノン電子(株)、シネジック(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、テスコム(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、東芝情報システム(株)、東芝デバイスソリューション(株)、東北電力(株)、日清紡マイクロデバイス(株)、日鉄ソリューションズ東日本(株)、日鉄テックスエンジ(株)、日本電子(株)、パーソルクロステクノロジー(株)、日立Astemo(株)、富士電機(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、矢崎総業(株)、山形航空電子(株)、山形サンケン(株)、ヤマハサウンドシステム(株)、開発技建(株)、(株)DNPデジタルソリューションズ、(株)DTS、(株)JR東日本情報システム、(株)KSK、(株)NTTデータ東北、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)アテック、(株)イー・アイ・ソル、(株)エクシード、(株)カブコン、(株)コンピュータシステム研究所、(株)シーエーシー、(株)スクウェア・エニックス、(株)スタッフサービスエンジニアリング事業本部、(株)データシステム米沢、(株)テクノプロ、(株)トインクス、(株)ニコンシステム、(株)日情システムソリューションズ、(株)日立システムズ、(株)日立社会情報サービス、(株)日立ソリューションズ東日本、(株)平和、(株)メイコー、税理士法人あさひ会計、東ソー・クォーツ(株)、東海旅客鉄道(株)、自営業(親戚の貿易会社)、フリーランス(音楽制作)、日上市職員、山形県職員(2名)、国土交通省 東北地方整備局、仙台国税局、山形大学大学院(77名)、東北大学大学院(4名)、埼玉大学大学院、筑波大学大学院、東京科学大学大学院、立教大学大学院	
	機械システム工学科	山形航空電子(株)(3名)、パーソルクロステクノロジー(株)(2名)、トヨタ自動車東日本(株)(2名)、(株)デンソーFA山形(2名)、東北エプソン(株)(2名)、東日本旅客鉄道(株)(2名)、OKIサーキットテクノロジー(株)、アリオンテック(株)、沖電気工業(株)、サーモス(株)、サミー(株)、ジヤトコ(株)、テクノ菱和(株)、テルモ(株)、デンソーテクノ(株)、パナソニック(株)空質空調社、三菱電機(株)、ヤマセ電気(株)、レノボ・ジャパン合同会社、(株)SUBARU、(株)葵技工、(株)かわでん、(株)カンセツ、(株)小糸製作所、(株)佐文工業所、(株)セイシン企業、(株)ビーネックステクノロジー、(株)フジキン、(株)ヤマダコーポレーション、(株)荏原製作所、(株)寺岡精工、(株)新来島豊橋造船、(株)登米村田製作所、(株)日産オートモーティブテクノロジー、(株)日立ハイテク、山形カオシア(株)、山形パナソニック(株)、前澤給装工業(株)、東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)、東京計器(株)、東北パルコニア(株)、日本航空電子(株)、浜松ホトニクス(株)、学校法人山形電波学園創学館高校、宇都宮市職員、鶴岡市役所職員、茨城県職員、静岡県職員、国税庁、山形大学大学院(70名)、東北大学大学院(4名)、名古屋大学大学院(2名)、京都工芸繊維大学、横浜国立大学先進実践工学府海洋空間システムデザイン、広島大学大学院先進理工系科学研究科	
	建築・デザイン学科	鹿島建設(株)、クラシタス(株)、ジーク(株)、住友林業(株)、トクラス(株)、フェデラルエクスプレス、北海道電力(株)、前田建設工業(株)、前田製管(株)、三井ホーム(株)、(株)NSFエンゲージメント、(株)NTTファシリティーズ、(株)シェルター、(株)四季工房、(株)早稲田学習研究会、三井不動産リアルティ(株)、日本工営都市空間(株)、東建コーポレーション(株)、上山市職員、郡山市職員、東北地方整備局職員(2名)、山形大学大学院(10名)	
フレックス	システム創成工学科	SWS東日本(株)、サンリット工業(株)、ベーリンガーインゲルハイム製薬(株)、三菱電機インフォメーションネットワーク(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、山形航空電子(株)、(株)NEXT ONE、(株)エイブル、(株)小糸製作所、(株)こだわり、(株)ソフトクリエイトホールディングス、(株)大都技研、(株)東北フジクラ、(株)ネクサスエージェンツ、(株)ハヤカワロストワックス、(株)日立建機カミーノ、(株)ビット・エイ、(株)山形銀行、米沢市職員、山形大学大学院(24名)、東京都立産業技術大学院大学	

2-1. 大学院理工学研究科(工学系) 博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
化学・バイオ工専攻	日東紡績(株)(3名)、DOWAホールディングス(株)(2名)、エプソン販売(株)(2名)、住友大阪セメント(株)(2名)、AGCエレクトロニクス(株)、art i ence(株)、JFEミネラル(株)、JN C (株)、TOA(株)、TOPPAN (株)、アクモス(株)、旭化成(株)、味の素(株)、一般財団法人材料科学技術振興財団(MST)、大内新興化学工業(株)、大阪ガスケミカル(株)、関東化学(株)、コグニザントジャパン(株)、コニカミノルタ(株)、ジーエルサイエンス(株)、昭和アステック(株)、水 i ng (株)、住友ゴム工業(株)、ゼブラ(株)、太陽ホールディングス(株)、中外製薬工業(株)、デンカ(株)、東亜ディーケーケー(株)、東北電力(株)、豊田合成(株)、ニチレキ(株)、日星電気(株)、日東電工(株)、ニプロファーマ(株)、ニプロ(株)、日本乳化剤(株)、日本プセル(株)、パナソニック(株)、富士紡ホールディングス(株)、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株)、古河電気工業(株)、ポリプラスチックス(株)、三菱自動車(株)、明成化学工業(株)、よつ葉乳業(株)、リンテック(株)、(株)NTTドコモ、(株)伊藤園、(株)機能性ペプチド研究所、(株)キャタラー、(株)九州ファルマラボ、(株)クレハ、(株)コーセー、(株)ジーシー、(株)タンガロイ、(株)日清製粉ウェルナ、(株)フジクラ、(株)ヨータイ、(株)リクルート、(株)リビングライフ、京セラコミュニケーションシステム(株)、日本原子力研究開発機構、山形大学大学院(4名)	
情報・エレクトロニクス専攻	東洋製罐グループホールディングス(株)(3名)、日鉄ソリューションズ東日本(株)(3名)、(株)SHIFT(2名)、(株)ソフトクリエイトホールディングス(2名)、(株)日立ソリューションズ東日本(2名)、AJS(株)、AKKODiSコンサルティング(株)、DOWAホールディングス(株)、LINEヤフー(株)、SCSK(株)、TOA(株)、アルプスアルパイン(株)、エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)、エヌ・デーソフトウェア(株)、オン・セミコンダクター会津(株)、キトー(株)、コニカミノルタ(株)、信越化学工業(株)、新光電気工業(株)、住友電工システムソリューション(株)、セイコーエプソン(株)、ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、テルモ(株)、東京エレクトロン(株)、東芝インフラシステムズ(株)、東北電力(株)、トヨタコネクティッド(株)、日東電工(株)、ニプロ(株)、日本航空電子工業(株)、パーソルクロステクノロジー(株)、バイオニアシステムテクノロジー(株)、パナソニックハウジングソリューションズ(株)、浜松ホトニクス(株)、プライムアース EVエナジー(株)、三井金属鉱業(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、山形航空電子(株)、沖電気工業(株)、(株)SUMCO、(株)アイシン、(株)エアウィーヴ、(株)ジェイテクト、(株)デンソーエレクトロニクス、(株)トクネット、(株)ネットシステムジャパン、(株)パナソ、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所、(株)フライトソリューションズ、(株)三越伊勢丹システム・ソリューションズ、三菱電機(株)、新電元工業(株)、富士フイルムビジネスイノベーション(株)、富士電機(株)、東北大学大学院、山形大学大学院	

機械システム工学専攻	本田技研工業(株)(4名)、東北電力(株)(3名)、トヨタ自動車(株)(3名)、川崎重工業(株)(3名)、いすゞ自動車(株)(2名)、日立建機(株)(2名)、ミネベアミツミ(株)(2名)、(株)SUBARU(2名)、(株)アイシン(2名)、住友重機械工業(株)(2名)、スズキ(株)(2名)、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(株)、NOK(株)、THK(株)、アズビル(株)、アルプスアルパイン(株)、(株)エー・アンド・デイ、北日本電線(株)、コベルコ建機(株)、セントラルソフト(株)、全日本空輸(株)、デンソーテクノ(株)、東京エレクトロン(株)、東京電力ホールディングス(株)、日清エンジニアリング(株)、パナソニックインダストリー(株)、東日本電気エンジニアリング(株)、東日本旅客鉄道(株)、ヒロセ電機(株)、富士フイルムヘルスケアマニュファクチャリング(株)、古河電気工業(株)、防衛装備庁、マツダ(株)、丸紅ITソリューションズ(株)、ヤマハ発動機(株)、(株)AESCジャパン、(株)IHI、(株)SCREENセミコンダクターソリューションズ、(株)アマダ、(株)シグマ、(株)デンソー、(株)登米村田製作所、(株)ナスカ、(株)ニューフレアテクノロジー、(株)フジクラ、(株)マキタ、三菱電機(株)、東海旅客鉄道(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、日本発条(株)
建築・デザイン・マネジメント専攻	(株)ADEKA、アイジー工業(株)、(株)大林組、いすゞ自動車(株)、山形大学大学院

2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	TOPPAN(株)(5名)、NOK(株)(4名)、信越化学工業(株)(4名)、アキレス(株)(2名)、キャノン(株)(2名)、スズキ(株)(2名)、トヨタ自動車(株)(2名)、三井化学(2名)、東京エレクトロン(株)(2名)、AGCエレクトロニクス(株)、artience(株)、DIC(株)、TDK(株)、TOA(株)、TOYO TIRE(株)、UBE(株)、アルプスアルパイン(株)、キャノントッキ(株)、コニカミノルタ(株)、テルモ(株)、デンカ(株)、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株)、マイクロンメモリジャパン(株)、マツダ(株)、理想科学工業(株)、リンテック(株)、一正蒲鉾(株)、横浜ゴム(株)、王子ホールディングス(株)、(株)SP、(株)アドウェイズ、(株)クラレ、(株)クレハ、(株)ケミトックス、(株)スリーボンド、(株)タムラ製作所、(株)ニコン、(株)ブリヂストン、(株)レゾナック、(株)金陽社、(株)三菱ガス化学、(株)東陽理化学研究所、(株)日立ハイテクマニファクチャ&サービス、三ツ星ベルト(株)、三菱ケミカル(株)、三菱電機(株)、三和油化工業(株)、山形航空電子(株)、住江織物(株)、住友大阪セメント(株)、信越ポリマー(株)、積水化学工業(株)、全国農業協同組合連合会、東洋紡(株)、東和薬品(株)、藤森工業(株)、日産自動車(株)、日東ベスト(株)、日東電工(株)、日本アビオニクス(株)、日本原燃(株)、日本精工(株)、日本製紙(株)、浜松ホトニクス(株)、富士フイルムビジネスイノベーション(株)、富士フイルム和光純薬(株)、豊田合成(株)、林テレンブ(株)、東京応化工業(株)、その他、山形大学大学院(9名)、京都大学大学院(2名)	

3-1. 大学院理工学研究科（工学系）博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
バイオ工学専攻	有職者(2名)	
電子情報工学専攻	日本電信電話(株)、有職者(1名)	

3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	Rapidus(株)、東レ(株)、三井化学(株)、三菱ガス化学(株)、(株)ナード研究所、東北大学、東京理科大学、岐阜大学、清華大学	

令和6年度 卒業・修了者の就職状況

(令和7年4月15日現在)

学科・専攻別 事項		昼 間						フレックスコース		博士前期						合 計
		高分子・有機材料工学科	化学・バイオ工学科	情報・エレクトロニクス学科	機械システム工学科	建築・デザイン学科	計	システム創成工学科	計	有機材料システム専攻	化学・バイオ工学専攻	情報・エレクトロニクス専攻	機械システム工学専攻	建築・デザイン専攻	計	
概 況	卒業・修了者数	130 (20)	127 (50)	151 (11)	139 (8)	35 (11)	582 (100)	46 (5)	46 (5)	98 (18)	73 (26)	65 (1)	67 (0)	8 (2)	311 (47)	939 (152)
	内 就職希望者数	23 (1)	59 (21)	64 (5)	56 (4)	22 (10)	224 (41)	19 (1)	19 (1)	86 (16)	67 (23)	62 (1)	66 (0)	4 (1)	285 (41)	528 (83)
	進 学 者 数	105 (19)	67 (28)	85 (5)	79 (4)	10 (1)	346 (57)	25 (4)	25 (4)	11 (2)	4 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (1)	18 (4)	389 (65)
	そ の 他	2 (0)	1 (1)	2 (1)	4 (0)	3 (0)	12 (2)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	8 (2)	22 (4)
	就 職 者 数	23 (1)	59 (21)	64 (5)	56 (4)	22 (10)	224 (41)	19 (1)	19 (1)	86 (16)	67 (23)	62 (1)	66 (0)	4 (1)	285 (41)	528 (83)
	未 就 職 者 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	就 職 率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	就 職 決 定 率 (%)	92.0	98.3	97.0	93.3	88.0	94.9	90.5	90.5	98.9	97.1	98.4	98.5	57.1	97.3	96.0

[注]()内の数字は女子を示し内数である。 就 職 率：就職者数÷就職希望者数
就職決定率：就職者数÷（卒業・修了者数－進学者数）である。

県内就職者数	5 (0)	16 (7)	11 (2)	16 (0)	3 (3)	51 (12)	6 (0)	6 (0)	3 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (0)	1 (0)	9 (4)	66 (16)
県内就職率	21.7	27.1	17.2	28.6	13.6	22.8	31.6	31.6	3.5	1.5	3.2	3.0	25.0	3.2	12.5

山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

- (1) 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者
- (2) 工学部に勤務する教職員
- (3) 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部内に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成
- (2) 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成
- (3) その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 理事
- (4) 監査
- (5) 幹事

第7条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、会員の推挙による。
- (2) その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
- (3) 理事は、本会の重要案件を審議する。
- (4) 監査は、本会の会計を監査する。
- (5) 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

- (1) 会務の報告
- (2) 事業計画に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) 会則の改正に関すること。
- (5) 会長の推挙に関すること。
- (6) その他理事会において必要と認めた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるとし、保護者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

- (1) 会員名簿
- (2) 役員名簿
- (3) 会議録
- (4) 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育後援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費は、次のとおりと定める。

- (1) 学部学生の保護者 26,000円
- (2) 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円
- (3) 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円
- (4) 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円
- (5) 本会の趣旨に賛同する者

令和5年度 一般会計収支決算書 及び 令和6年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位:円)

項 目	令和5年度			令和6年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
会 費	20,143,500	18,531,500	△1,612,000	19,870,500
雑 収 入	200	15,120	14,920	200
繰 越 金	8,927,381	8,927,381	0	7,703,740
合 計	29,071,081	27,474,001	△1,597,080	27,574,440

支出の部

項 目	令和5年度			令和6年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
1 学科厚生補導費	1,304,000	1,291,800	12,200	1,270,100
学 部 学 生 指 導 補 助 費	547,200	544,800	2,400	562,400
学 科 行 事 等 補 助 費	756,800	747,000	9,800	707,700
2 一般厚生補導費	3,661,500	2,300,986	1,360,514	2,531,500
国 際 交 流 関 係 補 助 費	500,000	318,731	181,269	500,000
T O E I C - I P テ ス ト 補 助 費	1,000,000	928,550	71,450	1,000,000
学務関係補助費	1,000,000	49,356	950,644	100,000
保 健 管 理 関 係 補 助 費	30,000	5,680	24,320	30,000
理 容 部 運 営 補 助 費	200,000	197,119	2,881	0
基 盤 教 育 事 業 後 援 費	931,500	801,550	129,950	901,500
3 進路対策補助費	20,000	0	20,000	20,000
4 学生研究助成費	800,000	691,100	108,900	800,000
5 課外活動補助費	1,000,000	202,094	797,906	1,000,000
6 一般体育設備等補助費	100,000	0	100,000	100,000
7 厚生施設等環境整備補助費	500,000	0	500,000	500,000
8 研修行事等関係補助費	150,000	0	150,000	150,000
9 学部渉外関係補助費	500,000	20,970	479,030	500,000
10 大学行事補助費	2,000,000	1,461,933	538,067	2,000,000
11 運 営 費	4,315,000	1,801,378	2,513,622	4,015,000
広 報 費	1,500,000	1,270,009	229,991	1,500,000
会 議 費	150,000	36,240	113,760	150,000
通 信 費	10,000	1,230	8,770	10,000
事 務 費	1,500,000	30,262	1,469,738	1,500,000
旅 費	50,000	7,020	42,980	50,000
地区別説明会費	1,000,000	356,067	643,933	700,000
学 園 都 市 推 進 協 議 会 費	100,000	100,000	0	100,000
雑 費	5,000	550	4,450	5,000
12 積 立 金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
13 施 設 協 力 金	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000
14 予 備 費	2,720,581	0	2,720,581	2,687,840
合 計	29,071,081	19,770,261	9,300,820	27,574,440

山形大学工学部父母等の集い 令和6年度実施報告と令和7年度開催予定

■令和6年度 実施報告

地 域	開催日	申込人数
対面開催(米沢)	10月5日(土)	274名
オンライン開催	11月2日(土)	312名

※令和7年度の開催日については、別途郵送にてご案内いたします。

お 知 ら せ

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、
こころの悩み

学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、休・退学、転学部・転学科、
科目等履修生、T A

学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

令和7年度工学部年間予定表

前 期(令和7年4月1日～9月28日)

授 業 期 間：4月7日～7月28日

定期試験・まとめ：7月17日、23日、25日、
28日～29日

補 講 期 間：7月30日～8月1日、
8月4日～5日

夏 季 休 業：8月8日～9月28日

9月学位記授与式：9月25日

後 期(令和7年9月29日～令和8年3月31日)

授 業 期 間：9月29日～2月2日

10月入学式：9月25日

開 学 記 念 日：10月15日

冬 季 休 業：12月25日～1月9日

定期試験・まとめ：1月27日～30日、2月9日

補 講 期 間：2月3日～6日、10日

春 季 休 業：2月20日～3月31日

学 位 記 授 与 式：3月20日

【後援会通信】

工学部後援会では、ホームページに各種お知らせを掲載しております。

山形大学工学部父母等の集いの開催案内につきましても、開催日が近づきましたら、ホームページに掲載し、参加申込みを受け付けます。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。